

巻頭言

名は体を表す



CNCP 副代表理事 花村 義久

この度、2年間のシビルNPO連絡協議会の活動を通して、NPO法人「シビルNPO連携プラットフォーム」が生まれました。名は体を表すと言いますが、今の段階では、名が体を表しているようにしたい、と云うところでしょうか。この組織では、名前にある4つのキーワード「シビル」「NPO」「連携」「プラットフォーム」が、その性質をあらわしていると言えます。

「シビル」、我々の世界ではシビルエンジニアリングとして親しまれているものです。土木工学の本質をよく表しています。でも、一般の人にはこれは何だろうと思えてくるかも知れません。市民が前面に出る時代、その中でNPOや市民活動に参加するような方々には、「CIVIL」から、市民の、民間の、民間人のだとか、シビリアン、シビルミニマム、シビリアンコントロール、シビリゼーションだとか、想像されると思います。特定非営利活動組織「NPO」、我々はメンバーの対象としてNPO法人だけに限定しているわけではなく、一般社団法人、公益社団法人にも参加したいと考えています。とはいえ、公益性を追求する集団として、新たに大きく開かれた時代の推進力になって来たNPOは、我々の活動の中心的存在であります。

「連携」、内部では、会員間の連携、地域での連携（地域内、地域間）、地域と中央との連携などがありますが、ここでは外部も含めた様々な主体間の連携、NPOと行政との連携、企業、大学、学会との連携などで、そこからいろいろな可能性を生み出そうと言うものです。人的、技術的、資金的資源活用などの連携によって、問題の解決を図り、あるいは相乗効果を生み、そして新しいものを生み出すことが出来ます。連携は、必要になった時に必要な形で行うというものなので、タイムリーに実現出来るようにすべきであり、我々はそのネットワーク的、協働的連携を促進する役割を担っていることとなります。

「プラットフォーム」と云う言葉は、自治体の中間支援組織ではあまり使われず、センターとか、その性質によってはネットワークとかが使われています。一般には最近では、モノづくり支援プラットフォームとか地域プラットフォーム、戦略的プラットフォームなど様々な使い方がされています。その中で共通しているのは、事業を成功させるにはしっかりしたビジョンとスタンスを持つプラットフォームが重要であるということです。それは分野ごとに特化されており、我々の場合も事業を行う上で心しなければならぬのだと思います。

我々は、一市民として専門家として幅広い見識と高度な技術でもって、時代が求める新たな世界を追求し（シビル）、新しいシステム・体制を確立し（NPO）、共感し合う仲間や周辺の人びと力を合わせて切り拓く（連携）、そんな場を戦略的に作り実践する（プラットフォーム）、この名称は、そんなメッセージを発しているのでしょうか。